

eラーニングライブラリ新コース
『決算書が読めるコース』 6月28日開講
財務3表を“図”にして読み解き、数字アレルギーを克服

株式会社日本能率協会マネジメントセンター(代表取締役社長:長谷川隆、中央区、以下JMAM[ジェイマム])は、オンラインで学べる法人企業向け教育ツール「eラーニングライブラリ」^{*1}の新コースとして、6月28日から『決算書が読めるコース』を開講します。

先行き不透明な時代において、「上場企業だから」「商品・サービスが売れているから」という理由では、安全な企業と安易に判断できなくなっています。そんな中、決算書から自社および取引先の経営状態を正しく把握することは、普段の業務は会計と関係のないビジネスパーソンにとっても、リスクマネジメントのため、また新たなビジネスチャンスをつかむために、これまで以上に重要視されています。

一方、「必要性はわかるが、どうも数字は苦手」「決算書は難しい」と感じているビジネスパーソンが大勢いることも事実です。昇進・昇格の条件として、嫌々ながら学習する方も少なくありません。

このような背景のもと、JMAMでは『決算書が読めるコース』(以下、本コース)を開講します。本コースは、財務3表をそれぞれ“図”にすることで、パッと読み解く方法を学びます。公認会計士、税理士である岩谷誠治氏の監修により、貸借対照表は「似顔絵」に、損益計算書は「時計」に、キャッシュフロー計算書は「三段跳び」に見立てるメソッドで、安全性などを視覚的に把握できるようになります。

また、スマホやタブレットでも学習可能で、場所を選ばず、短時間で取り組みます。

JMAMが提供するeラーニングライブラリは、オンラインで1年間、いつでも、何度でも、手軽に学ぶことができる、法人向け教育ツールです。個人個人の学習履歴を簡単に把握できるほか、費用についてもマネジメント系教育テーマ全125コースを一人あたり7,560円(税込み)^{*2}というリーズナブルな価格で受講できます。パソコン、スマホ、タブレット端末などのインターネットを通じて手軽に取り組むことができ、現在、2,000社超、のべ110万人を超える企業・団体に導入されています。

このほかにも管理職への人事・労務管理教育や全社一斉のコンプライアンス教育、内定者・新入社員教育、英語・中国語などのグローバル教育など、幅広く活用されています。

JMAMでは、今後も企業の人材育成を支援するべく様々なサービスを展開していく予定です。

日本能率協会マネジメントセンター(JMAM)について:JMAMは、日本能率協会(JMA)グループの中核企業として1991年に設立されました。通信教育・研修・アセスメント・eラーニングを柱とした人材育成支援事業、能率手帳の新生ブランド『NOLTY』や『PAGEM』を代表とする手帳事業、ビジネス書籍の発行を中心とした出版事業を通じて、「成長したいと願うすべての人」を支援し続けていきます。www.jmam.co.jp

^{*1}: JMAMが提供する「eラーニングライブラリ[®]」は、「むずかしい」を「わかりやすく」、「手軽に学べて、満足できる」ことを特長とし、インターネットで、1年間、いつでも、何度でも受講できます。内定者・新人から管理職までの階層別教育、コンプライアンスやビジネススキル、語学といった目的別教育、技術・技能教育など幅広いラインアップとなっています。また、eラーニングライブラリの大きなメリットとして、契約期間中は追加料金無しで、新コースが続々追加されていくことです。教材改訂も随時実施しており、スマホ・タブレット対応等、継続的にeラーニングライブラリの充実を図っています。2017年6月現在、全181コースのラインアップを、2,000社超、のべ110万人以上が利用しています。
http://www.jmam.co.jp/hrm/elearning_lib/index.html

^{*2}: マネジメント系ライブラリ(2017年6月現在125コース)10名さま、7万5600円(税込み)にてご利用いただいた場合の金額となります。ご契約内容に応じて、費用は変動いたします。
eラーニングライブラリ[®]は、株式会社日本能率協会マネジメントセンター(JMAM)の登録商標です。

【報道関係者お問い合わせ先】

(株)日本能率協会マネジメントセンター 広報担当

TEL: 03-6362-4361(直通) / E-mail: PR@jmam.co.jp

【サービスに関するお問い合わせ先】

(株)日本能率協会マネジメントセンター パーソナル・ラーニング事業本部 TEL: 03-6362-4345

『決算書が読めるコース』の概要

- ねらい
基本的な3つの決算書、①貸借対照表 (Balance Sheet=B/S)、②損益計算書 (Profit & Loss Statement=P/L)、③キャッシュフロー計算書 (Cash Flow Statement=C/F または C/S) を、それぞれ“図”にすることで、パッと読み解く方法を身につけます。
 - 特長
 - 貸借対照表を、「似顔絵」に見立てて分析し、理解します。(似顔絵分析法)
 - 損益計算書を、「時計」に見立てて分析し、理解します。(時計分析法)
 - キャッシュフロー計算書を、「三段跳び」に見立てて分析し、理解します。(三段跳分析法)
 - 学習時間 : 想定学習時間 2時間/最短実行時間 36分
 - 対 象 : ビジネスパーソン全般
特に、すぐに決算書を読めるようになりたい営業や管理職などで、“数字アレルギー”の人
 - カリキュラム
 - 【はじめに】決算書って何だろう？
 - 【第1章】貸借対照表とは
貸借対照表は何のための表？
似顔絵分析をしてみよう！〈目を描く、眉を描く〉
 - 【第2章】損益計算書とは
損益計算書は何のための表？
損益計算書から会社の特徴をつかむ
時計分析をしてみよう！
 - 【第3章】キャッシュフロー計算書とは
キャッシュフロー計算書は何のための表？
三段跳分析をしてみよう！
- ※テスト問題 1回 (客観式 10問、ランダム出題)

学習画面例 : 「1-5 やってみよう！」 (2店の貸借対照表を似顔絵分析) より

■ 1-5 やってみよう！

イタリア料理店

貸借対照表 (単位:千円)

科目		科目	
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	30,000	流動負債	26,400
現金・預金	6,000	買掛金	8,400
売掛金	10,000	短期借入金	18,000
たな卸資産	14,000	固定負債	30,000
固定資産	40,000	長期借入金	30,000
有形固定資産	20,000	負債合計	56,400
建物	8,000	(純資産の部)	
器具・備品	12,000	資本金	10,000
投資その他の資産	20,000	利益剰余金	3,600
敷金	20,000	純資産合計	13,600
資産合計	70,000	負債・純資産合計	70,000

資産合計 7,000万円

■ 1-5 やってみよう！

イタリア料理店

流動資産 16,000千円
流動負債 26,400千円
固定資産 40,000千円
純資産(資本) 13,600千円

資産合計 7,000万円

ラーメン店

貸借対照表 (単位:千円)

科目		科目	
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	5,000	流動負債	3,000
現金・預金	4,400	買掛金	2,000
たな卸資産	600	短期借入金	1,000
固定資産	15,000	固定負債	4,000
有形固定資産	12,000	長期借入金	4,000
建物	4,000	負債合計	7,000
器具・備品	8,000	(純資産の部)	
投資その他の資産	3,000	資本金	10,000
敷金	3,000	利益剰余金	3,000
資産合計	20,000	純資産合計	13,000
		負債・純資産合計	20,000

資産合計 2,000万円

ラーメン店

流動資産 4,400千円
流動負債 3,000千円
固定資産 15,000千円
純資産(資本) 13,000千円

資産合計 2,000万円

資産の合計は、7千万円と2千万円。
資産の規模では、イタリア料理店の成長が著しいようです。

資産の合計額では、イタリア料理店に遠く及ばないラーメン店ですが、財務的には、ラーメン店の方が健全であると判断できるでしょう。